

私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。1:4 すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。1:5 神は、ただみこころのままに、私たちがイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ決めておられたのです。1:6 それは、神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。1:15 こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、1:16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。1:17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。1:18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか (知ることができますように)。

昨年 12 月 5 日に、南アフリカ共和国のネルソン・マンデラ元大統領が死去しました。マンデラ元大統領は人種隔離政策 (アパルトヘイト) に反対する闘争を指導したために 27 年間投獄され、1990 年に解放されました。そして、1993 年にノーベル平和賞を受賞し、翌年に第 8 代大統領に就任しました。彼の考えや行動は多くの国家元首に大きな影響を与えたので、彼の葬儀には各国の元元首や現元首を含む多くの人が集まって、彼の功績をほめたたえました。けれども、マンデラ大統領のような偉大な人もいつか忘れられます。現に、若い世代の多くの人は彼の名前さえ知りません。それが世の常です。

しかし、天地万物の造り主である神、主が忘れ去られてはいけません。不信仰な人々が主から離れ去り、主を忘れ、太陽や月や星、山や大木、様々な偶像、死んだ人間を神々としてあがめても、私たちクリスチャンは主を忘れないようにしましょう。主をあがめ、礼拝し、ほめたたえましょう。形式的にはなく、理由を認識して心からほめたたえましょう。パウロは今日の箇所、父と子と聖霊という主の三つの神格の中の、父なる神をほめたたえる理由を私たちに認識させ、「いっしょに主をほめたたえましょう」と招いています。

I. 父なる神は天にあるすべての霊的祝福で私たちに祝福してくださいましたので、ほめたたえましょう

私たちが神をほめたたえる理由の一つは、父なる神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました方だからです。「キリストにおいて」とは、キリストは私たちに祝福を与えるための神の使い、神と人間との仲介者だという意味です。父なる神は全能なので、私たちに天にあるすべての霊的祝福を直接与えることもできましたが、キリストを通して与えることにしました。天にあるすべての霊的祝福はキリストからだけ私たちに与えられます。そのために、父なる神は子なる神イエスにマリヤの胎で人間の肉体を取らせ、ベツレヘムの馬小屋で生まれさせました。

パウロは天にあるすべての霊的祝福のリストを記録しませんでした。天にある霊的祝福が一つも漏れることなく私たちに与えられました。それは、ことばで言い尽くせないほど素晴らしいことです。パウロは天にある霊的祝福について 4 節と 5 節で少し具体的に書きました。父なる神は私たちが世界の基を置く前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとしました。ただし、私たちはその意味を誤解しないようにしなければなりません。日本語の聖書だと、「神が私たちが天地万物が造られる前からキリストのうちに選んだ」ように受け取れます。そのため、ある人々は「初めから救いに選ばれた人々と選ばれなかった人々がいる。」と主張します。もしその主張が正しいなら、キリストが弟子たちに残した「この世の終わりまで、すべての人々に福音を伝えなさい。」という使命は無意味です。

パウロのことばを忠実に翻訳すると、神が天地創造の前に選んだのは「私たち」ではありません。「私たちが父なる神の御前で、キリストにあって聖く、傷のない者にされる」ことです。つまり、キリストがすべての人の罪を神の御前で完全に償うので、キリストを信じる信仰を通して、誰でも、父なる神からの恵みの贈り物、条件なしの贈り物として罪のない者と認められることを、神は天地創造の前に選んだのです。神は一部の人だけでなく、アダムとエバからこの世の終わりまでのすべての人のために、キリストにあって聖く、傷のない者にされる方法を選んだのです。これならば、聖書のどの箇所とも矛盾しません。ローマ人への手紙にも、「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスのゆえに、償なしに義と認められるのです。」と書かれています (3:23,24)。

天にある霊的祝福のもう一つの具体例は、父なる神がみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めたことです。「私たちをキリストによってご自分の子にしようと定めた」ということは、私たち人間が神の子でないことが前提です。そうでなければ、父なる神が私たちをご自分の子にしようと定めることはできません。神はアダムとエバが悪魔に誘惑され、罪を犯し、悪魔の子孫になってしまうことを、あらかじめ分かっていました。それは、「神が人間をそのように仕向けた」という意味ではありません。人間が神から与えられた自由意志を用いて、悪魔に従った結果です。人間はその場で永遠に滅ぼされて当然でしたが、神はそのような人間を愛して、人間をキリストによって神の子にする道を天地創造の前に定めていました。それは父なる神のみこころでした。父なる神はそのような方ですから、私たちによってほめたたえられるにふさわしい方です。

II. 御霊によって父なる神についての理解を深めていただき、父なる神をますますほめたたえましょう
パウロは今日の箇所、父なる神をほめたたえる理由を私たちに認識させました。しかし、今日の箇所には父なる神をほめたたえる理由が全部書かれている訳ではありません。神をほめたたえる理由は他にもたくさんあります。ですからパウロは、「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。」と祈りました。これはエペソの信者のための祈りですが、すべての信者が必要としている祈りです。最初の両親が悪魔に誘惑されて、神に背いた時、人間はきよさだけでなく、神についての知識も失いました。神について無知になりました。神をあがめず、神に感謝しなくなりました。そして、人間や鳥や獣や爬虫類などの形をした像を作り、神々として拝むようになりました（ローマ 1:20-23）。

神について知っていると思っけていても、実は無知になったので、すべての人は神を知るための知恵と啓示の御霊を与えていただく必要があります。御霊は聖霊なる神です。聖霊なる神は父なる神や子なる神イエスのところから私たちに来ます。聖霊なる神は助け主や聖め主とも呼ばれます。聖霊は聖書のことばや聖礼典（洗礼や聖餐式）を通して働いて、私たちの心の目を開き、神についての正しい知恵を私たちに増し加えます。聖書を学べば学ぶほど、私たちは神についての理解を深められます。「神を知るための知恵と啓示の御霊」は、聖霊についてのイエスの教えと一致しています。十字架に架けられる前、イエスは自分が去って行く代わりに聖霊を送る約束を弟子たちに与えました。そして、「聖霊はあなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したことを思い起こさせ、あなたがたをすべての真理に導き入れる。」と聖霊の働きについて説明しました（ヨハネ 14:3,26 ; 16:13）。

聖霊の助けがなければ、私たちは神を知ることができません。神を知らないことは、神に“無知という覆い”が掛けられていて見えない状態です。その“無知の覆い”を取り除いてもらわなければなりません。何かを覆っている覆いを取り除いて、覆われていたものを見えるようにすることを「啓示」と言います。余談ですが、新約聖書の最後の書は「黙示録」という名前です。実は黙示録の「黙示」と今日の箇所の「啓示」は同じギリシャ語です。未来や天国のことは私たち人間には分かりませんが、神は幻によって未来に起こることや天国のことをヨハネに見せました。それは、ヨハネの立場からすると、神によって覆いが取り除かれて、未来に起こることや天国が見えるようになったことです。ですから、最後の書は黙示録という名前になりましたが、啓示録という名前にしても間違いではありません。それはともかく、私たちも聖霊によって“無知という覆い”を取り除いてもらわなければ、父なる神について正しく知ることはできません。

神を知るための知恵と啓示の御霊が与えられれば、私たちの心の目、つまり信仰の目がはっきり見えるようになります。そうすれば、クリスチャンとして神に召された者に与えられる望み、永遠の命の望みがどのようにすばらしいものかを知ることができるようになります（1ペテロ 1:3）。さらに、信者が受け継ぐ天の資産がどのように栄光に富んだものかを知ることができるようになります。天にある神の資産（宝）は泥棒に盗まれることも、錆びることも、朽ち果てることも、価値が目減りすることはありません（1ペテロ 1:4）。それは、この世のすべての宝を積んでも購入できません。それに比べれば、この世のどんな苦しみも取るに足りません（ローマ 8:18）。

以上のように、神や神が私たちに与える天にある霊的祝福のことは聖書の色々な箇所に書かれているので、それらの箇所も学び続けましょう。そうすれば、聖霊が与えられて私たちの心の目がはっきり見えるようになり、父なる神がどれほど栄光ある方か、どれほど威厳に満ちた方か、それと同時に、どれほど私たち罪人を愛しているかがますます分かります。そうすれば、私たちは口先だけや形式的にはなく、理由をはっきりと認識した上で、ますます心から父なる神をほめたたえることができるようになります。そして、自分がほめたたえるだけでなく、パウロがそうしたように、同時代の人々や後の時代に対して、「父なる神をほめたたえましょう。」と自信をもって招くことができます。イエス・キリストの父なる神に栄光と賛美が限りなくありますように。アーメン。